



「できた」が大きく実りますように

2学期がスタートして1カ月が過ぎました。運動会を10月開催にしたこともあり、ゆっくりと学校のリズムを取り戻すことができたり、校外学習を実施したり、今までと少し違う9月となりました。

以前までは2学期の始まりと同時に、運動会練習に励み、運動会終了後一定期間、体育の時間を減らし、他の教科とのバランスをとっていましたが、1カ月遅らせたことで、9月から計画的に練習に取り組んでいます。

10月に入ると体育の時間は少し増えるのですが、ゆとりをもって練習できそうです。これからは暑さもやわらぎます。体を動かす心地よさを感じながら練習に取り組んでほしいです。

さて、学校生活も折り返しの10月となります。何もかもが初めてであった1年生も、すっかり小学校の生活に慣れ、自分たちのクラス、仲間意識が強くなってきていることをうれしく思います。学校生活の様々な場面で、友達を励ましたり、寄り添ったりする姿を見て、どの子ども確実に成長していると感じています。また、6年生をはじめ他の学年の子どもたちのいろいろな姿から、「子どもたちは自ら伸びる力を備えている」を感じます。「ああしなさい」「こうしなさい」ではなく、子どもたちが、自分の中に「ああしたい」「こうしたい」という芽を持つこと、そしてそれを生かそうとする姿勢を育てることが、我々教師の役割だと気づかされます。

一人ひとりに「できた」がある。その「できた」がさらに大きく実る10月になるよう、子どもたちが自分の成長を感じ、自分に自信を持てるよう取り組みを進め、ちょっとした成長や変化を見逃さないようにすることで、子どもたちの成長していく力を支えていきます。



10月行事予定

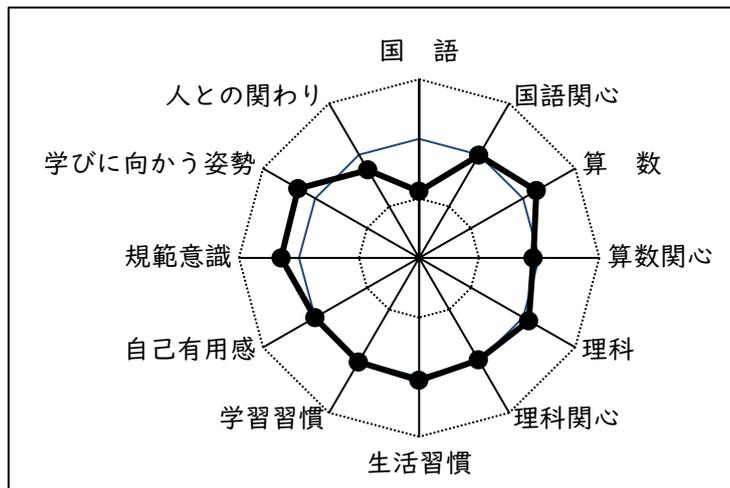
9月3日(土)の環境整備作業、運動場が見違えるほどきれいになりました。保護者の皆様、ありがとうございました。

月	火	水	木	金	土
03 1年校外学習 委員会活動	04 4年やまのこ事後学習	05 県教委学校訪問	06 職員会議	07 小中部会授業研6年	08
10 	11 55交流(園児来校) 6年運動会係打合	12 運動会公開練習	13	14 前日準備 13:30下校	15 運動会
17 振替休業	18	19 2年 歯科指導	20	21 5年出前授業(トヨタ) 保幼小部会授業研1年	22 滋賀県陸上記録会
24 3年 消防署見学 クラブ活動	25 	26 民生委員児童委員懇談会	27	28	29 
31 クラブ活動					05 

【全国学力・学習状況調査の結果について】

本校の現状を客観的に表す資料として職員全員で分析し、『本校の強みと弱み』について検討しました。分析結果は裏面に掲載しています。個々の結果は10月3日(月)に返却します。

【本校児童の強み・弱み（全国との比較）】



強み

「規範意識」「学びに向かう姿勢」の自己評価の高さ

弱み

読む力、書く力 人と関わろうとする姿勢
自分事としてとらえる意欲

課題

- ・生きて働く「知識・技能」の習得
- ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ・学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性」の育成

【国語について】

- 書くこと** 文章全体の構成や書き表し方の工夫などをとらえられないため、文章に対する感想や意見を伝え合ったり、自分の文章のよいところを見つけることに課題がある。
- 読むこと** 登場人物の行動や気持ちを叙述を基にとらえたり、登場人物の相互関係を描写を基にとらえること、人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。

【算数について】

- 図形** 長方形、正三角形の意味や性質、構成の仕方は理解できているが、平行四辺形、ひし形は理解できていない。
- 変化と関係** 百分率と分数の関係、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある

【理科について】

- 生命** 観察などで得た結果を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことに課題がある。
- 地球** 水是水蒸気になった空気中に含まれていること、観察結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことに課題がある。

【今後の取組】

- ※ 全ての教科で「聞く・話す」「書く」の指導を充実させる。
- ※ 国語科において
 - ・「何を、誰に、何のために書くのか」等、書く目的や相手を明確にした課題を設定する。
 - ・読む機会を増やすとともに、「何が書かれているか」という内容面だけでなく「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読む指導を充実させる。
- ※ 算数科において
 - ・なぜその式なのか、なぜその解き方が成り立つのかという「なぜ」を追求する活動を重視する。
 - ・日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の間接性を表したりする。
- ※ 教える場面と思考・判断・表現させる場面を意識した授業設計。
- ※ 勉強（基礎基本の確実な習得）と学び（多様な考えが学び合える活動）の両輪を動かす授業設計。

【質問紙調査の結果から】

- ※ 学習習慣の確立につながる家庭学習の評価の実施。読書の楽しさを実感できる取組の充実。
- ※ 自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育てていく取組の充実。身近な目標を達成させながら、自分に対する自信をもたせる取組の充実。
- ※ 「きまり」や「きまりを守ること」の意義についての理解を深める指導とともに、学校生活の中でその意義を実感できるような活動を充実させる。
- ※ 「何のために話し合うのか」「話し合ったことをどのように生かすのか」を明確にし、子どもたちがその目的を理解して話し合い活動ができるようにする。
- ※ 自分や他者の気付きを基に差異点や共通点をとらえ、問題を見いだす場面を設定する。
- ※ 一人一人をつなぎ、子どもにとって安心して自己存在感や充実感を感じられる学級経営。